

習志野

石黒俊行

千葉工業大学通用門（旧鉄道第二連隊表門）

- ・場所：習志野市津田沼 2-17-1
- ・国登録有形文化財（建造物）



ご紹介するのはＪＲ津田沼駅南口近くにある千葉工業大学津田沼キャンパスの古い通用門です。これはかつて同敷地内にあった旧陸軍鉄道連隊第三大隊（後の鉄道第二連隊）の表門だったものでした。

■ 陸軍鉄道大隊の歴史

鉄道兵は戦争の際、占領地にいち早く鉄道を敷設し、兵員は弾薬・食料を前線に送る任務を持っていました。

明治 29 年東京牛込の陸軍士官学校内で発足した鉄道大隊は、翌年、東京中野に移転し、中国大陆を転戦して評価を高めました。

明治 43 年（1910）旧陸軍鉄道連隊第三大隊に昇格し、習志野市津田沼町谷津に移駐し、ここを起点として、習志野原に点在する各陸軍施設をつないだ軍用鉄道が敷設されました。

大正 7 年（1918）に改組されて、千葉市に鉄道第一連隊が発足し、そして津田沼に鉄道第二連隊が発足しました。習志野は帝国陸軍鉄道隊の揺籃の地だったのです。



写真：「鉄道第二連隊 正門」（大正 10 年～昭和 7 年頃）

■ 門の生い立ち

この通用門は、もと鉄道第二連隊の兵営入口に設けられた表門でした。

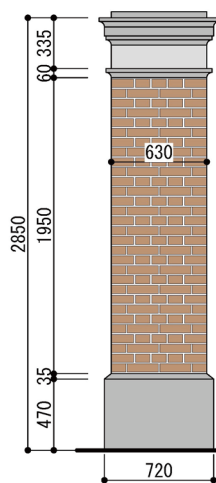
その後、昭和 20 年（1945）の終戦とともに連隊は閉鎖されました。そして、津田沼駅南側の兵営・演習場だった場所は、昭和 27 年（1952）から千葉工業大学のキャンパスとなり、この門だけが千葉工業大学通用門として残り、現在に至っています。

■ 門の設置場所

設置されている場所は、大正 6 年（1917 年）発行の一万分の一地形図「津田沼」仮製版（大正 6 年測図）によれば、連隊敷地の北の端、総武線津田沼駅の南側、現在はバスターミナルになっているあたりです。



■ 国登録有形文化財に登録



レンガはイギリス積み

煉瓦造の 4 本の門柱から成っています。

鉄道第二連隊施設の建造物として、国土の歴史的景観に寄与している貴重な遺構として、平成 10 年（1998 年）2 月に、国登録有形文化財に登録されました。

鉄道連隊がこの地にあったという土地の歴史を知る上で、貴重な建造物であり、赤煉瓦の古風な趣から「工大の煉瓦門」と呼ばれ、広く親しまれています。

現在、この通用門は国内で古い歴史を持つ私立理工系大学のシンボルとして保存されています。

鉄道隊写真と古地図は習志野市ＨＰより。

参考文献：千葉県・習志野市ＨＰ国登録有形文化財、文化遺産オンライン：文化庁